

# 第1学年2組 算数科学習指導案

指導者 美浦村立木原小学校 T1 木村 てるみ

T2 谷田部 康代

1 単元名 「たしざん」

2 指導観

- ・児童はICTを使った授業をいつも楽しみにしている。デジタル教科書を使うことで意欲をもって問題解決に取り組めるようにしたい。
- ・算数が好きで計算問題に意欲的に取り組む児童は多いが、自分の考えを自信をもって発表することができない児童もいる。ペアで発表することで、みんなの前で自分の考えを発表することの不安や抵抗感を取り除きたい。
- ・(1位数) + (1位数) の繰り上がりのある計算を数え足しで答えをだすなど、10のまとまりに着目して考える児童は少ない。書画カメラで発表することを楽しみながら、友達の考えの発表を聞き、ブロック操作を見て、10のまとまりをつくることよき気づかせたい。

3 学習計画 (8時間扱い)

次	学習活動
1	① 繰り上がりのある加法の計算方法を10のまとまりに着目して考える。(加数分解) <本時>
	② 加数を分解する繰り上がりのある加法の計算方法を考え、計算をする。
	③ 被加数を分解する繰り上がりのある加法の計算方法を考え、計算する。(被加数分解)
	④ 加数・被加数の大きさを判断し、自分のやりやすい方法で繰り上がりのある加法の計算をする。
2	⑤ 計算カードを使い、計算練習をする。また、答えが同じになるカードを見つける。
3	⑥ ⑦いろいろなカードゲームをし、計算に習熟する。
4	⑧ 基本的な学習内容に習熟し、それを活用する。

4 本時に使用するICT機器と目的

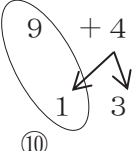
使用するICT機器	活用する目的	■課題の提示 □動機付け ■教員の説明資料 ■学習者の説明資料 □繰り返しによる定着 □モデルの提示 □失敗例の提示□体験の想起 □比較 □振り返り □体験の代行 □その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラズマディスプレイ</li> <li>・書画カメラ・ロール電子黒板</li> <li>・デジタル教科書・プロジェクター</li> </ul>		

5 本時の目標とICT活用のねらい

本時の目標	1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の計算のしかた(加数分解)がわかる。繰り上がりのある加法の計算方法を10のまとまりに着目して考える。
ICT活用のねらい	デジタル教科書を使って、わかりやすく問題提示をする。 自分の考えを発表するために、書画カメラを使って、ノートと手元のブロックの動きを写す。 パワーポイントで作成したワークシートを拡大し本時のまとめを印象づけて理解を深める。

6 本時の展開

時間	学習活動及び内容	指導上の留意点 (◎評価 □ICT活用のねらいに対する支援)
8	<p>1 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>9にんであそんでいます。そこに4にんやってきました。みんなでなんにんになったでしょう。けいさんのしかたをかんがえよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立式 <math>9 + 4 = \square</math></li> <li>見通し 10より大きくなりそう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書で絵入りの課題を大きく写し興味をひく。</li> <li>・全体で考えながら課題に書き込む。 わかっていること _____ もとめられていること ~~~~~ ヒントになることば </li> <li>・立式</li> <li>・答えが10より大きくなる見通しをもたせる。</li> </ul>

5	<p>2 課題を自力解決する。</p> <p>&lt;予想される解答&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1から順に1つずつ数えてみんなで13になる。</li> <li>・9から10, 11, 12・・・と数えたし13になる。</li> <li>・9に4の中の1をたして10。残りの3をたして13になる。(加数分解)</li> <li>・9のなかの6と4をたして10。残りの3で13になる(被加数分解)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算のしかたで戸惑っている児童には、ブロックを使ってもいいこと、(10のまとまりがつくれる)ブロックケースを使ってもいいことを助言する。</li> </ul>
30	<p>3 自分の考えを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア</li> <li>・全体</li> <li>・デジタル教科書で確認 自分の考えと比べる。 10のまとまりをつくるよさを確認する。</li> </ul> <p>4 類題を解く</p> <p>5 まとめ</p> <div data-bbox="212 1099 807 1637" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>9 + 4のけいさんのしかた</p> <p>※大きいほうのかずを <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">10のまとまり</span>にする。 <span style="margin-left: 20px;">9だから</span>  <span style="margin-left: 100px;">あと1</span></p> <p>※9が10のまとまりになるように4を<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</span>と<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3</span>にわける。 <span style="margin-left: 20px;">9 + 4</span>  <span style="margin-left: 100px;">1 3</span></p> <p>① 9に4のなかの<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</span>をたして10 <span style="margin-left: 20px;"></span></p> <p>② 10と<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3</span>で13 <span style="margin-left: 20px;">⑩</span></p> </div> <p>今日の「きらきら」を書き、発表する。</p> <p>6 次時の活動内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いに自分の考えを説明する。教えてあげる。似ているところをさがす。</li> <li>□計算のしかたをどのように説明すればわかりやすいか発表につながるペアでの話し合いができていくか机間指導を行う。</li> <li>・書画カメラを使い自分たちの考えを発表する。</li> <li>□デジタル教科書のつばさ、ゆいの考えをあらかじめ隠しておく。9 + 4の大きい方の数9を10のまとまりにしようと考えたつばさの考えを徐々に開けていく。</li> <li>ゆいの考えは、実際に操作をしているようにブロックを動かすことで理解を深める。</li> <li>共通して10のまとまりをつくっていることに気付かせる。</li> <li>・9 + 4の計算の仕方が他の式にも使えるのか類題を解く。</li> <li>□児童用の穴埋め式のワークシートと同じものを提示し、本時の学習のまとめを行う。</li> </ul> <div data-bbox="874 1227 1489 1346" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎10のまとまりに着目してたしざんをすることを理解しているか。(ノート・発表)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動を振り返らせる。</li> <li>・まとめを参考に、本時の活動でわかったこと、大切だと思ったこと、良いところ、思ったことを記入するよう助言する。</li> <li>・本時の活動の様子を賞賛し、次時への意欲につなげる。</li> </ul>

## 7 ICT活用の評価

	ICTの活用	評価内容
A	プラズマディスプレイ	画面が大きく画像も鮮明で、児童の発表意欲をかきたてることができる。
A	書画カメラ	発表のための準備がいらず、児童のノートをそのまま写すことができる。考えの結果だけでなく、児童がブロックを動かしながらの考えの過程を発表することができる。
A	ロール電子黒板      デジタル教科書	教科書の写したい部分を大きく写すことができる。教科書にある計算の仕方をあらかじめ隠しておき、説明に沿って段階ごとに開けていくことができ、児童は自分の考えとの比較や確認ができる。
B	ロール電子黒板 プレゼンテーションソフト	児童のワークシートと同じものを、黒板で計算の段階ごとに写しまとめの確認をすることができる。